

市内に修学旅行生が来ています

リポーター 渡辺 政美さん
(旭ヶ丘)



渡辺リポーター

五年前、教育研究所に立ち寄ったときに、彼らから送られてきた修学旅行記を目にしたことがある。

六月二十三日、文化会館の駐車場に、大型バス七台に分乗した中学生が降りた。札幌市立西野中学校の修学旅行の団体で、二百五十人あまりのようだった。尋ねると、夕べは奥入瀬に宿泊、今朝十和田湖を観光し、大館に来たとのこと。今日は、いくつかのグループに分かれて、大館市内及び近郊の見学や体験学習など、目的を持った行動のよう。ちなみに今夜の宿泊は湯瀬温泉とのこと。

そういえば、五月下旬ごろには札幌市立羊丘中学校の生徒が来ていたのを、偶然街で見かけた。この中学校は平成の初めころから何年か続けて来ているようだ。四、

穴館、芝谷地湿原の整備、それに「あきた北空港」の開港など元氣回復の大きな条件が相次いで整ってきている。ここ数年の行政の成果には、市民も大きな自信と誇りを持つてきているように思える。

先日、市の観光物産課の富樫課長と越前係長から観光行政の現状や方策及びさらに先を見通した展望を伺った。

それによると、

▽近年は札幌市内の中学校のほか「花岡事件」を通した平和学習等で山梨県からも来ている。それで、修学旅行に対応するため、より多様なコースの策定を練っているところだ。だが、宿泊等の受け皿のめどが立たない。

▽修学旅行にきている学校に対して、今後よりよい見学・体験・

研修コース作成のためにアンケートを依頼したいと考えている。

▽「あきた北空港」の開港に伴い大きく地域を宣伝していきたい。そのため、東京など、就航先に出向き、旅行代理店などに、観光資源の豊富な素材を紹介して回っているところだ。

▽具体的な観光コースについてレンタカー、タクシー会社、旅館組合等と連携をさらに詰めていきたい。空港利活用促進協議会の観光部会では、まだ公開していないが十三コースの案を持っている。

▽米代川流域の県北十八市町村が共同で、この地域を宣伝するための共通ビデオを作った。

しかし、提供する情報のきめ細かさや宿泊等の受け入れ体制は不十分である。

▽さしあたり、観光ボランティアの養成を図るとともに、街の印象を良くするため、市民の真心と人情を大事にしていきたい。

とのことであつた。

以上が話された要点だが、行政の取り組みとともに、市民一人ひとりの真心のこもった対応が、やがては大館が「北東北観光の玄関口」として脚光を浴びてくるものと信じていたい。



各種施設に続き「あきた北空港」も開港
元氣回復の条件は整った

No. 2

だより